

第 2 回 教育課程編成委員会 議事録

日時：令和 7 年 3 月 11 日(月) 14：30～16：20

場所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者：イーキュア株式会社 福盛 二郎 様

ニコヘアデザイン 石田 晃教 様

小原校長 小口教務主任、中村 1 学年主任

議事録

1. 校長挨拶

お陰様で、先週令和 6 年度の卒業式を無事に終えることができました。1 年間の振り返りとして自己評価の報告をさせていただきます。忌憚の無い、ご意見をいただきますようお願いいたします。

2. 2024 年度自己評価について(資料 1) ・2024 年度 実施報告 (変更事項一覧)

基準 1「学校理念」

- ・理容科への入学生の増加に対して、学生の希望に沿ったカリキュラムの充実が望まれる。

基準 2「学校運営」

- ・学校運営の課題として、先生の人数確保と教える側の「質の向上」は前向きに推進していただきたい。理想論ではありますが、「働きやすい職場」であることよりも「個々が成長できる職場」であることの方が、時代の要求に沿っている様です。
- ・サロン教育においても、一日 8 時間・週 5 日間の限られた時間で、どのようにスキルアップをさせていくかという課題が有ります。

基準 3「教育活動」

- ・先生方の生徒に対する献身的な取り組みには頭が下がります。今後、ベテランの先生が身に付けた指導方法を、新任の先生により効率よく、組織全体で共有できる仕組みとしてのノウハウにしていくことが求められてくると思います。
- ・学びの形として、「技術動画」に関するコンテンツが充実してきている。一定の技術を持った先生方であれば、流行に沿ったヘアスタイル過程の「動画」を見ることで学びに繋げることが十分にできます。
- ・卒業生が母校に帰って、講師として授業を行うことは、在校生にとって具体的な目標となり、卒業生には仕事へのモチベーションが上がる相乗効果が得られると思います。

基準 4「学修成果」

- ・総じて「いい子」と見られがちな若者世代ではありますが、「話を聴きとる力」「文章を理解する力」は弱くなっていると思います。SNS の書き込みに対しても同様に、言葉に注視するあまり、文章の行間を読むことができない傾向にある。
- ・保護者連絡や報告事項に、先生方の対応が求められてしまうが、先生と学生の距離の近さを強みとしながらも、プライベートとしての一線を引くことも注視していただきたい。

基準 5「学生支援」

- ・業界で活躍されているサロンの先生方で、学生の興味関心を引き付けることができる講習内容があれば、積極的に提案させていただきます。

基準 7「学生募集」

- ・理容科学生の増加と共に、今後も入学生増加を維持していくためにも、実習カリキュラムの内容には流行を取り入れ、興味関心を引き付ける必要がある。
- ・サロンの集客においても、顧客のインスタ等の利用頻度が高まっている。日常のツールとして若者に限らず、50代・60代であればSNS使用の抵抗感は無くなりつつある。
- ・広報の在り方として、テレビや新聞といったオールドメディアは広く一般に情報を発信するマスメディアとして、SNSは個々の日常にある情報ツールとして、発信側が使い分けをしていく必要がある。

3. 2024年度重点目標の報告（別紙1）

4. 2025年度重点目標について（別紙2）

- ・教職員の自己評価アンケートから改善点を3点に注視した目標である。教職員個々の目標とクラス目標にも関連付けていただきたい。

6.委員からの提案

・福盛委員からの提案

多様な学生に関わる、先生方への支援がますます必要である。今までの成功体験を次世代にも引き継いでいけるような、風通しの良い組織が求められています。先生方が自ら学んでいく姿勢を維持していただき、学校としても研修を中心とした先生方への学びの機会を充実していただきたい。

学校の広報については、紙のパンフレットは有りとして、HPを基としたネット配信内容の充実が必要である。

・石田委員からの提案

令和7年度の入学生が増加した傾向を分析していただき、効率の良い広報の情報発信が重要だと思います。サロンでもインスタの利用は日常化していて、今後も強化していく傾向です。「口コミ」となる「卒業生」や「インフルエンサー」を活用していくといった、広報の在り方もあると思います。